

# 2016年度第1回SGH運営指導委員会

○朝野富三 宝塚大学特任教授を迎えて

日時：平成28年6月30日(木) 14:00～15:45 会場：理事室

出席者：＜運営指導委員＞ 朝野富三 宝塚大学特任教授

＜関西創価高校＞ 武田学園長・中西校長・榊田副校長・本房教頭・大月教頭・千葉総合寮長・  
藤原 SGH 委員

＜管理機関代表＞ 狩野創価教育センター参事・杉本創価教育副センター長

式次第：1. 2016年度の取り組み、3月～6月の実施内容について（中西校長）

2. NIEの取り組み報告（藤原 SGH 委員）

3. 運営指導委員よりご助言・ご指導（朝野教授）

4. 意見交換

5. 挨拶（狩野参事、武田学園長）

○梶田叡一 奈良学園大学学長を迎えて

日時：平成28年7月4日(火) 12:00～14:00 会場：理事室

出席者：＜運営指導委員＞ 梶田叡一 奈良学園大学学長

＜関西創価高校＞ 武田学園長・中西校長・榊田副校長・本房教頭・大月教頭・千葉総合寮長  
・池田 SGH 副委員長

＜管理機関代表＞ 太田創価教育センター長・杉本創価教育副センター長

式次第：1. 2016年度の取り組み、3月～7月の実施内容について（中西校長）

2. NIEの取り組み報告（池田 SGH 副委員長）

3. 運営指導委員よりご助言・ご指導（梶田学長）

4. 意見交換

5. 挨拶（太田創価教育センター長、武田学園長）

○米田伸次 日本ユネスコ協会連盟理事を迎えて

日時：平成28年7月7日(木) 14:00～16:00 会場：理事室

出席者：＜運営指導委員＞ 米田伸次 日本ユネスコ協会連盟理事

＜関西創価高校＞ 武田学園長・中西校長・榊田副校長・本房教頭・大月教頭長  
・千葉総合寮長・小山教諭

＜管理機関代表＞ 狩野創価教育センター参事・杉本創価教育副センター長

式次第：1. 2016年度の取り組み、3月～6月の実施内容について（中西校長）

2. 広島フィールドワークについて（小山 SGH 委員長）

3. 運営指導委員よりご助言・ご指導（米田理事）

4. 意見交換

5. 挨拶（狩野参事、武田学園長）

<運営指導委員よりいただいたご助言・ご指導の要旨>

○（高大連携プログラム UP クラスについて）素晴らしい取り組みではあるが、全校生徒の割合からして参加者が少ないのではないか。もっとおもしろくさせる工夫が必要ではないか。いかにそのおもしろさをアピールするか。「教える」という目線の高さが問題。おもしろければ勝手に参加者が増える。どうやったら参加者が増えるか、さらに工夫を期待したい。

○（NIE について）いい取り組みではあるが、学校全体に広がりをもたせる工夫が必要。新聞も他紙との比較をさせてみてもよい。新聞社によって同じ記事の取り扱いに大小があり、ものの見方・価値観の違いが学べる。

○高大連携プログラムも講師の先生方の講義を通じて違いに気づくことが大事。価値の多様性を尊重すること。違う価値観を際立たせて考えさせる。柔軟な価値観・多様性を育てることに役立ててほしい。

○大学生の社会に対する関心が薄い。新聞を読んでいない証拠。社会や政治に対する関心を持たせる努力が大切。多様な価値観の中でどうやって行くかを考えることが大事。それを育てるのが SGH の意義。

○10 年、20 年、30 年先を見て行うのが教育。短期的な結果を求めてはいけない。一貫教育で育ってきた生徒の中には、これまでに学んできたことに疑問を持つようになる人もいるかもしれない。そのことを踏まえての指導・育成が大切。SGH を通して他との接触・交流によって創価の良さがわかる。それを自然にできるようにすること。多感な高校生 の 時期、他の世界に触れさせる必要性を感じる。

○創価学園は強い確信を持っているのだから、もっと外へ目を向けるべき。それだけの力がある。SGH は単なるステイタスではない。それ以上の意味がある。

○多彩な取り組みには感銘を覚える。この調子で続けてほしい。その上で何をやるのか。生徒に具体的に何を身につけさせるのか。生徒の将来とどう結びつけるのか。アウトカムを明確に考えてほしい。この SGH の取り組みが何を生み出すのか。生徒の長い人生にどう関わるのか。教員間の共通理解が必要。生徒は、「平和」と言えば「平和」に、「人権」と言えば「人権」に対し、一生懸命取り組む。それが統合されることによって何につながるのか。各種のフィールドワーク等が一体化され、生徒個人の中でどういう像を結ぶのか。言語化してみる必要がある。

○御校には、「他人の不幸の上に自己の幸福を築くことはしない」という平和教育の指針があり、「すべての人が幸せになるための活動」という、宮沢賢治が言うような理念がある。人々の幸せ作りにいかに関わることができるか。高校の勉強が何に役立つのか。間接的であっても人のためになることを意識させること。

○高校、大学で学んだことが、人生の中で生きてくることが大切である。高校の時、ちらっと見た世界の貧困の現状を見て、どう考えるのか。人権が無視される世界の現状を見て、いかに将来の仕事につなげるのか、またどうすればよいか等、常に考えること。そのためには、感じること。言語化すること。

○進路指導を意識することも大切。高校で使命感を持てたら、その先の道を想定して進ませる。大学への進学も、この学科に行くと高校で習ったことがこう生きてくる。教員が一人ひとりの未来を意識して指導していく必要がある。SGH の学びが進路決定にさらに影響するように期待している。ある大学で行っているカンボジア研修は日本では見るできないものを見る機会となっている。カンボジアで働きたいと思う学生、教育面でカンボジアの発展に寄与・参画したいと希望する学生が出てきている。大学ごとの情報をいろいろ集めて、生徒につなげることが大事だ。

○関西創価高等学校の SGH の取り組みはよくやっていると感心している。今後は教科の殻を破っていろいろな授業を展開すること。他校は多文化教育をやっているが、それ以上のことをやってほしい。今行っている取り組みの意義を明確にして進めてほしい。

○仙台や石巻など震災の復興も、進んでいるところとそうでない所がある。今の子どもたちの様子も見かけは復興が進んでいるように見えるが、心の問題がある。PTSD のような問題もある。関西創価高校生が、被災した方々から、もしくはその心情を知る人から話を聞く機会があればよいと思う。

○皆が世界のためにとの思いで、そのような生き方をしていく手がかりとして、このような SGH のプログラムを行っているということを生徒に分からせることができたら素晴らしい。

○初年度に比べて大変にグレードアップした。すばらしい。生徒の成長・発達に合わせたプログラムになっている。国際大会への参加については海外を体験させようとしていることに感心した。国際教育研究会等にも出席して、この実践を発表してはどうか。大阪の私学にも刺激を与えてほしい。

○（SGH の研究報告書から）よい取り組みが行われている SGH には4つのポイントが見える。

①学校独自の教育理念・ポリシーがしっかりある。それを教員集団がしっかり共有している。関西創価高校はその最右翼だ。さらに教育理念の実践として二点ある。全校的に取り組んでいることと、理念を具体化して取り組んでいることだ。

②取り組み・実践をしっかり記録している。きちんとした報告になっている。

③学校の中だけで学ぶのではなく、大学・団体・地域等、外部との連携を通して学びのスタンスを広げている。

④生徒の変容がきちんと押さえられている。記録・分析がなされている。

課題を押さえた上で次に向けて検討しているとは思いますが、関西創価高校の今の課題は③と④ではないか。教育理念は、全体として読み取ることができるが、まだ遠慮した表現だ。すばらしい教育理念を持っているのだからきちんと書き記すべきだ。建学の精神をまとめたものを出す必要がある。

○（地域との連携について）関西創価高校はここでしかできない学びを広げている。全国的にもトップの取り組みと思う。しかし、SGH で言われていることとして、地域の学びを世界の問題にどうつなげていくのか。関西創価高校は、研究開発名として、「TRY 人の郷・交野から平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム」と謳っている。地域から世界へのテーマだが、「地域から」の部分が一年目はあいまいだった。公立校は、地域と密接な関係を持っているが、私立はその点が弱い。地域から世界への部分を強くすることが求められる。

○高校で問題を独占せず、地域とともに考える。SGH の重要な部分に関わることだ。社会の問題を学ぶことで学びに広がりが出る。地球的課題の解決をどうするか。他者の苦しみを自分の痛みとしてどう受け止めるか。それは知識がないといけないが、共感する想像力がまず求められる。トータルして学べるようにすることが必要と思う。

○関西創価高校が学んでいる SDGs。これは日本の教育全体の課題。「だれも置き去りにしない」。これは、「他人の不幸の上に自己の幸福を築くことはしない」という関西創価高校の平和教育の信条に通ずるところがある。21 世紀の大きな課題。他の学校に響くように取り組んでほしい。グローバル化の時代は、コミュニケーション能力が大切だが、学びの中に異文化理解があることが必要である。異文化理解と国際理解は同じではない。異文化理解をどのように国際理解に発展させるかである。

○ 高校生は地域に住んでいる仲間と一緒に問題を考えること。東北へ生徒を派遣するべき。「交野から世界へ」が大事である。東北に行って何を見て来たか。「いのち」が大切だということ。大切にすることはどうすることか。生きるとはどういうことか。皆が考え、学ぶこと。学校が変わり地域に入ることが、生徒と先生を変える。知識とともに豊かな感性、共感性、同苦の心が大切だ。

○（アンケート結果から生徒の変容の問題について）積極的に取り組めたとの数値がすばらしい。だが積極的に取り組めたとは、何がそうさせたかの質問があった方がよい。変わったと言うが、どういう風に変ったのか。その問いをもつこと。この結果で満足してはいけない。

○（探究型総合学習 GRIT について）よく考えられ、生徒もよく取り組んでいて、すごいと思う。一年で人権と平和について学習したとある。どうとらえるか、もっともっと深めてほしい。平和を学んで感じたこと。アンケート結果がよかったこと。もっと分析を。これでいいのかという問いかけが必要だ。生命を大切にすることが平和につながることをしっかり学ばせること。アンケートでさらに深いところまでわかる質問を工夫してほしい

○教員も生徒もともに学んでいくこと。この教育でこんな人を育てたいという目標・戦略を作ること。世界市民以外のキーワードも必要。そこから内面を引き出す。世界市民、グローバル人材、グローバルリーダーは、どう違うのか考え、目指すべき人材像からさらによりよいカリキュラム作りを期待したい。

○関西創価高校はユネスコスクールにも申請されている。リーダーを育成するための教育が SGH である。SGH で人材と ESD をどうつなげるか。ここを関西創価高校に期待したい。日本の SGH を牽引する存在に。哲学があり人間を育てている。これがあるから関西創価高校はよい。発信をもっと積極的にすべきである。教育哲学をもっと前面に出すように。いのちの尊厳。そういう理念を持った SGH 校になってほしい。自分のいのちを大切にすることをさらに期待している。